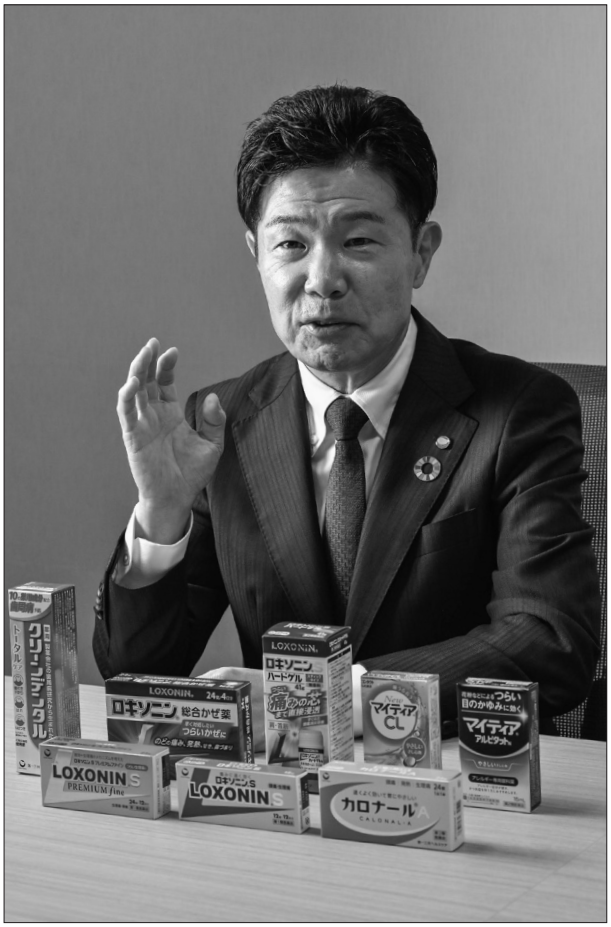
集中 OPINION

セルフケアの推進と更なる成長へ 失敗恐れずチャレンジ精神で臨む



内田 高広

第一三共ヘルスケア株式会社 代表取締役社長

少子高齢化による医師不足や医療費の増大が懸念される中、自分の健康を自己管理するセルフケアが求められている。軽度な症状なら、薬局等で検査薬や市販薬を購入して様子を見る事も必要だろう。その為には製薬会社がニーズに合った医薬品を提供する事が必要だ。今年４月、風邪薬の「ルル」や解熱鎮痛薬の「ロキソニンＳ」等を製造販売している第一三共ヘルスケアの代表取締役社長に、経営企画部門長を長く務めた内田高広氏が就任した。今後、製薬メーカーとしてどの様に社会に貢献して行くのか、内田氏に会社を取り巻く経営環境や、今後の目標、抱負について話を聞いた。

――55歳の若さで社長に就任されました。

内田　今年1月に、当時の社長である吉田勝彦に「次を任せたいと考えている」と打診され、引き受ける旨を即答しました。当社は4社の製薬会社が経営統合した組織です。他にも優秀な社員が大勢いる中で選ばれた事には率直に驚きもしましたが、業績も順調に拡大しており、医療用成分をＯＴＣ化するに当たってのスイッチ・ラグの解消といった業界への追い風も有る。この成長のスピードを加速させて行けるタイミングで経営を引き継ぐという点では、強い責任感と共に胸躍る気持ちも有りました。

――どの様な点で推挽されたと感じていますか。

内田　社長就任会見の時に前社長も述べていましたが、第一三共ヘルスケアの発足以来、経営企画部で成長戦略を立案して実行して来たという経歴から、会社の良き伝統や文化を引き継いで行けるという点でしょうか。「あらゆる課題に向き合うバイタリティーに溢れ、社員の声に対する傾聴の姿勢や迅速な意思決定といった経営者に求められる資質を兼ね備えている」等と紹介されましたが、「課題は先延ばしにしない、そ[illegible]るのであれば理由を明確にし、期限を切って改[illegible]結論を出す」というスタ[illegible]ス等、自分自身で強[illegible]と自負している部分が[illegible]価されていたのだと感[illegible]した。

――会見では[illegible]の経[illegible]されました。

内田　第一は[illegible]倒的なシェアナンバー1企業[illegible]る事[illegible]「機能性スキンケア・オーラ[illegible]の一層の拡大」、「新ブランド、新規事業、新[illegible]イアンスの創出」、他に[illegible]科学的根拠に基づいた[illegible]加価値ヘルスケアカン[illegible]ー」、

続きを読むには購読が必要です

詳しくはホームページをご覧下さい